文法への扉１ 「走って」いるのは誰？（文法を生かす）

文節・連文節の対応を正しくする

日本語の文は、**主・述・修飾・接続・独立**の５種類の文の成分が組み合わさって成り立っている。文を書くときは、主・述の関係や、修飾・被修飾の関係などの係り受けがきちんと対応するようにする。

●**主・述の関係**

主・述は文の成分の中でも文の構造の中心となるものである。主・述がうまく対応していないと、不自然な文になる。

（例）私の将来の夢は、国語の先生になって、言葉のおもしろさを伝えていきたいです。　→　×

※「夢は……伝えていきたい」と、主・述が対応していない。

私の将来の夢は、国語の先生になって、言葉のおもしろさを伝えていくことです。　→　○

●**呼応の副詞**

呼応の副詞を単独で使うと不自然な文になる。呼応の副詞はその副詞に対応する語句で受けるようにする。

（例）もし…なら、～。　たとえ…ても、～。
決して…ない。　まるで…ようだ。

文節・連文節の対応を明確にする

主・述、修飾・被修飾といった係り受けや、意味のまとまりの切れ目がわかりづらいと、文が複数の意味に解釈できてしまうことがある。文の表す意味が明確になるように、修飾語の位置を変えたり、文を分けたりするとよい。また、読点を付けると意味のまとまりがはっきりすることがある。

（例）今朝畑でとれた野菜をサラダにした。
A　畑でとれたのが、今朝。
B　サラダにしたのが、今朝。

・文を分ける。修飾語の位置を変える。
A　今朝畑で野菜がとれた。それをサラダにした。
B　畑でとれた野菜を、今朝、サラダにした。

※修飾語（部）は、被修飾語（部）の直前に置くと、係り受けがわかりやすい。

・読点を付ける。
A　今朝畑でとれた野菜を、サラダにした。
B　今朝、畑でとれた野菜をサラダにした。

打ち消しの表現を含む文でも、表す意味が曖昧になる場合があるので、明確に伝わるように表現を工夫するとよい。

（例）私は彼女のように英語が得意ではない。
A　私は彼女と違って、英語が得意ではない。
B　私は彼女と同じく、英語が得意ではない。

確認テスト

(1) 例に従って、次の文に含まれる主語に══線を、述語に──線を引きなさい。

(例) 鳥が　空を　飛ぶ。

形式に　注目すると、詩は　定型詩や　自由詩などに　分けられる。

(2) 例に従って、次の文の〰〰線部が修飾している文節に──線を引きなさい。

(例) 鳥が　空を　飛ぶ。

今朝、私は　山の　上で　美しい　朝日を　見た。

(3) 次の文の係り受けが正しくなるように、──線部を正しく直したものを選びなさい。

私の将来の目標は、人の役に立つ研究をしたいです。

ア　研究が目標です　　**イ**　研究が希望です

ウ　研究をすることです　　**エ**　研究を考えています

〔　　〕

(4) 次の文で、文節同士の係り受けがうまく対応していない箇所(かしょ)を選びなさい。

この学校を志望した理由は、自由な校風が理由です。

ア　「志望した」と「理由は」　　**イ**　「理由は」と「理由です」

〔　　〕

(5) 次の文の（　　）に入る言葉を、解答欄(かいとうらん)に合うように答えなさい。

たとえがうまくいかないことがあったとし（　　）、目標に向かって努力し続ける姿勢が大切だと思います。

□□

(6) （　　）内の意味がはっきりするように、次の各文に読点をそれぞれ一つ付けなさい。

① 私は　兄と　母に　相談した。

（相談した相手は兄と母）

② 先生は　うれしそうに　挙手した　生徒を　指名した。

（うれしそうなのは先生）